

## 平成20年度第1回被服学教育FD/IT活用委員会議事概要

- I. 日 時： 平成20年6月3日（火）
- II. 場 所： 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者： 高部委員長、角田委員、伊佐治委員、江川委員、鈴木委員、山口委員  
井端事務局長、森下、恩田

### IV. 議事概要

#### 1. 本年度の委員会活動について

- ・ 中央教育審議会の審議のまとめを受けて、「学士力」（4年生の学部卒業生が最低限身に付けるべき能力）」を検討する。
- ・ 本委員会では、専門分野（被服系）で身につけなければいけない固有の能力を明確にし、端的で、簡潔な表現でまとめる。
- ・ その後、次年度には、詳細な学士力の検討と、到達目標、判定方法、学生の到達能力を実現するための、教員の教育力を検討する。
- ・ 特に、被服系学生が身につけなければいけない情報技術を明らかにする。

#### 2. 議事内容

##### a. 被服の分野の固有能力の考え方

- ・ 職業における必要固有能力から考える。  
（デザイナー、パターンナー、販売員、企画者 etc.） アパレル関係  
・・・アパレル関係だけでなく教育関係もあるのでは？
- ・ コアカリの考え方から、必要能力を考える  
→ 被服固有の情報、生産者（造る、売る）、消費者

##### b. 被服系の学部・学科の現状

- ・ 服飾系は、数えるほどになってきている。
- ・ 生活環境、生活デザインに改組され、本来の被服学研究とは異なる路線となっている。
- ・ ファッションデザイン系では、クリエイティブさを重視している

##### c. 問題点

- ・ 現在の日本の服装生産は、完成度が非常に高い。世界という観点からみると、服は、開発途上国からも入ってくるので、TES、TAに必要な能力は異なっている。  
パターンナー、デザイナーも今までの能力だけでは世界で通用しない。
- ・ 市場経済に左右されるだけでなく、本質的な能力を考え直す。
- ・ 感性と科学との関係を結びつける能力が必要。
- ・ 学生の能力とのギャップ。

##### d. 今後の方針

- ・ 被服の分野に関して「基礎力」、「作る側」、「売る側」、「使う（着る）側」それぞれにおける必要な固有能力が異なっている。
- ・ 服育について考える（現在はモラルが中心）。

- ・生活領域における判断力（再生、リサイクル、購入、）も必要。
- ・ゼネレーションで必要能力も異なるのではないか。

○分担：「被服系基礎力」、「作る側」、「売る側」、「使う（着る）側」の自分の得意な分野または、気になる分野で、考えてくる。

次回 9月9日（火）2：00～4：00